

# ダイズ紫斑病の基幹防除を徹底してください

令和2年5月1日  
鳥取県産米改良協会

## ○令和元年産種子の紫斑病発生状況と今作の防除対策

- ・昨年は紫斑病の発生が多かったため、一部で紫斑粒の混入がみられます。
- ・このような種子を用いても、発芽障害、生育障害の多発は起きません。
- ・しかし、種子伝染により発病した茎葉等が、紫斑粒の伝染源となります。
- ・発病を最小限に抑えるために、例年と同様に薬剤による基幹防除（種子消毒と茎葉散布）を徹底してください（薬剤の例は裏面参照。）

※ご不明な点は、各指導機関にご相談ください。

## ○紫斑病の伝染方法と防除対策

紫斑粒の発生→気象の影響大  
（子実肥大期以降の高温と多雨）



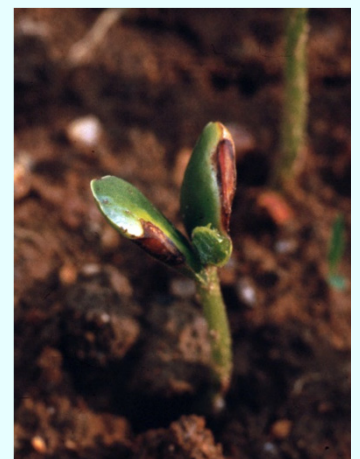
【莢・子実に伝染】



【紫斑粒】



【茎葉に伝染】  
（見かけ健全）



【子葉等に伝染】

茎葉散布

種子消毒

※薬剤防除だけでなく、排水対策や適期収穫の実施も有効です。

# 防除薬剤の例

## 1. 種子消毒

- ・クルーザーMAXX(原液8 mL/乾燥種子1kgの種子塗沫処理)  
または
- ・クルーザーFS30(原液6 mL/乾燥種子1kgの種子塗沫処理)  
→キヒゲンR-2(原液20 mL/乾燥種子1kgの種子塗沫処理)の  
体系処理

## 2. 茎葉散布

### ○水和剤の場合

- ・アミスター20フロアブル  
開花20～35日後に1回  
2000倍で100 L/10a または 3000倍で150 L/10a  
※展着剤を加用すること。

### ○粉剤の場合

- ・スミチオンベルコート粉剤DL  
開花15～20日後とその10日後の2回  
3 kg/10a  
※本剤の防除効果はアミスター20フロアブルと比較してやや劣る。

※害虫防除は栽培地域の発生状況に適した薬剤を選択して実施する。

※記載した薬剤の情報は2020年4月6日現在のものである。